

予防接種ガイド

お子さまを感染症から守るためには、「必要なワクチンを必要な時期に受けること」が大切です。このガイドを活用して計画的なワクチン接種をすすめましょう。

B型肝炎

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：生後2か月から
 - 2回目：前回から4週以上あけて
 - 3回目：1回目から4-5か月あけて、満1歳未満まで

B型肝炎ウイルスは肝臓の細胞を破壊します。主に血液を介して感染します。感染直後は急性肝炎を起こし、持続感染になると肝硬変や肝臓がんにつながる可能性があります。乳児期に感染した直後は症状がないことが多いですが、持続感染になりやすいためワクチン接種が大切です。

ヒブ

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：生後2か月から満7か月未満
 - 2回目：前回から4-8週あけて
 - 3回目：前回から4-8週あけて
 - 4回目：前回から7か月以上あけて（生後12か月になったら早期に）
- ※初回接種が満7か月以降の場合、接種スケジュールが異なります。

「ヒブ」はインフルエンザ桿菌B型（Haemophilus influenzae type b）のことで、頭文字をとって「Hib」と呼ばれています。季節性の「インフルエンザウイルス」とは全くの別物です。Hibは重症な感染症を起こす菌なので、生後2か月になったら速やかにワクチン接種することが望ましいです。

四種混合

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：生後3か月から
 - 2回目：前回から3-8週後
 - 3回目：前回から3-8週後（満1歳未満まで）
 - 4回目：前回から12-18か月後（前回から6か月後以降接種可能）

ジフテリア：のどの粘膜に感染し、空気の通り道が細くなることもある感染症です。
破傷風：主に土の中に存在し、小さな傷口から体内に侵入します。筋肉が痙攣し命に関わることもあります。
百日咳：激しくせき込み、その後息を吸うとヒューと笛を吹くような音が聞こえることが特徴です。
ポリオ：罹患しても多くの場合無症状ですが、稀に麻痺がおり障害が残ります。

ロタウイルス

ロタリックス（お勧め）・ロタテック

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：生後2か月から生後14週6日（≒生後3.5か月）まで
 - 2回目以降：前回から4週以上あけて
 - ※2回接種のワクチンは24週までに完了すること
 - ※3回接種のワクチンは32週までに完了すること

ロタウイルスは小腸に感染し、胃腸炎を起こすウイルスです。ワクチンには1価のロタリックスと5価のロタテックがあります。どちらも予防効果は遜色ありません。接種後に腸重積を発症することがごく稀にあります。生後15週以降は接種後の腸重積発症率が上がるため、接種が推奨されていません。

肺炎球菌

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：生後2か月から満7か月未満
 - 2回目：前回から4週以上あけて
 - 3回目：前回から4週以上あけて
 - 4回目：前回から60日以上あけて（生後12-15か月の間に）
- ※初回接種が満7か月以降の場合、接種スケジュールが異なります。

肺炎球菌は鼻やのどに潜んでいる菌です。空気の通り道から侵入し肺炎や菌血症など重症感染症につながります。とくに乳幼児や高齢者の重症感染症では頻度の高い細菌です。生後2か月になったら速やかにワクチン接種することが望ましいです。

BCG

- 一般的な接種間隔**
- 生後5か月から満8か月未満での接種が推奨
 - 満1歳まで

BCGは牛に感染する結核菌の毒性を弱めたものです。結核は発病すると肺を損傷したり、全身感染症になることもあります。BCG接種後、針の痕に一致した場所が赤く硬くなったり、少しじくじくするのは通常の反応です。接種後5-6週くらいが最も目立ちますが、その後かさぶたとなり、普通の皮膚に戻ります。

麻しん・風しん（MR）

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：満1歳から満2歳未満
 - 2回目：小学校入学前の1年間（年長の4/1-3/31）

麻疹：発熱や咳などで発症し、3-4日目に全身に発疹が出た後、高熱が数日続きます。多くは自然に治りますが、肺炎や脳炎を合併することがあります。
風疹：発熱、発疹、リンパ節の腫れを特徴とします。飛沫により感染し、多くは自然に軽快しますが、脳炎などを合併することもあります。
MRワクチンを接種した5-10日後に発熱や発疹を認めることがありますが、2-3日で改善します。

おたふくかぜ

自費：6,000円

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：満1歳以降早めに
 - 2回目：小学校入学前の1年間（年長の4/1-3/31）

おたふくかぜは、発熱、耳下腺の腫れがおこります。症状は1-3日でピークを迎え、1週間ほどで自然に良くなりますが、全身の症状を伴うこともあります。また、後遺症として難聴になることもあります。ワクチンの予防効果は高く、任意接種でも受けた方が望ましいワクチンです。

日本脳炎

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：満3歳以降
 - 2回目：前回から6-28日あけて
 - 3回目：1回目から6か月以上あけて7歳6か月未満まで
 - 4回目：満9歳から満13歳未満

豚などの動物から蚊がウイルスと血液を吸い上げ、ヒトを刺すことで発症します。痙攣をおこしたり昏睡状態になることもある危険なウイルスです。3歳以降に初回接種を行います。海外渡航の予定などがある場合は生後6か月を過ぎたら接種可能です。

水痘

- 一般的な接種間隔**
- 1回目：満1歳から満1歳3か月未満
 - 2回目：前回から6-12か月後、満3歳未満

水痘帯状疱疹ウイルスの感染により熱がでて、かゆみのある発疹が全身に広がります。頭皮にも発疹ができることが特徴です。すべてかさぶたになるまで7-10日くらいかかります。非常に感染力が強いため、すべての発疹がかさぶたになるまで登園、登校できません。

インフルエンザ

自費：未定

- 一般的な接種間隔**
- 生後6か月から満13歳未満：年2回
 - 満13歳以上：年1回
 - 1回目：毎年10-11月頃
 - 2回目：1回目から4週あけて（生後6か月以上満13歳未満）

インフルエンザは特に治療をしなくても良くなるのがほとんどですが、入院を要することもあります。ワクチンを接種することで発症率や入院率を半分近くに減らすことができます。ワクチンにはごく微量の卵蛋白抗原が含まれています。非常に少ない量であるため、多くの場合ワクチン接種に問題はありますが、卵アレルギーで通院の場合、主治医と相談してください。

二種混合

- 一般的な接種間隔**
- 満11歳から満13歳未満

ジフテリアと破傷風を予防するワクチンです。乳幼児期に四種混合ワクチンを接種することでほぼすべての人が十分な抗体を獲得しますが、効果が減弱するため追加接種が望ましいといわれています。



エールホームクリニック
AILE HOME CLINIC

940-2013
長岡市下柳 1-10-13
0258-86-8722
<https://mbv.or.jp/ailehome/>